



交通安全教室

年長児は4月から小学生となり、ほとんどの子どもたちがランドセルを背負って徒歩で学校へ通学することになります。

家から学校までの道路には、細い道もあるでしょうし交差点もあると思います。信号があれば横断歩道もあります。こうした環境の中を、登校班がある学校では集団登校し、ない学校は一人で登校することになります。下校に関しては友だち数人での下校や一人でということも多いかと思えます。

また、ご家庭で外に遊びに出た際にも道路の横断やショッピングセンターの駐車場での歩行など、そこを走る自動車に注意しなければいけないこともいろいろとあります。

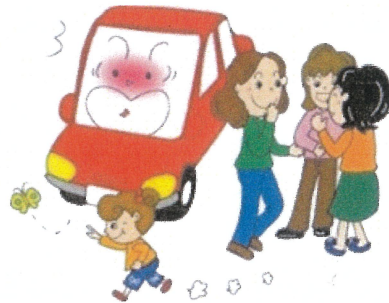
このような街全体の交通に関し、子どもたちが気をつけなければいけないことを専門家に教わろうということで、鈴鹿警察署にご協力いただき、年長児はもとより、年中児も対象として「交通安全教室」を開催しました。

第2すずかきしおか幼稚園では1月20日(月)に年長児が、21日(火)に年中児が、すずか幼稚園では1月17日(金)に年中児が、30日(木)と31日(金)に年長児が「交通安全教室」を受けました。

年中児に対しては、駐車場で走らないことや保護者と手をつなぐこと、家庭の車に乗る時にはシートベルトを必ずつけることなどを、その理由も含めて教わりました。「ケンちゃん」と呼ばれる腹話術の人形を使って、子どもにもわかりやすい話となりました。

年長児は、警察署が持ってきたランドセルを背負って横断歩道を渡る実演を個々の子どもたちが体験し、安全な横断について学ぶことができました。

交通安全は、子どもたちだけが気をつけるものではないと思います。私たち大人の「見本」が子どもたちの安全を守ることになりますので、まずは私たちが交通ルールを守るところを見せるのと同時に、安全確保のためのチェックをしている姿勢を示すことが大事だと思います。



節分(豆まき)

令和7(2025)年の「節分」は、2月2日(日)でした。節分は字のごとく「季節を分ける」という意味で、春の訪れを示す「立春」の直前が節分となるそうです。これは、地球の公転周期(公転周期は、約365.2422日で、365日とのズレ)の修正からのもので、通常は2月3日ですが、数年に一度ずれるとのことでした。

本園では毎年、節分にちなみ「豆まき」を行っています。子どもたちは豆まきに備えて鬼の面と豆を入れるマスを作ります。そして、両幼稚園に「いい子にしているか?」「好き嫌いはしていないか?」などと書かれた鬼からの「手紙」が届くと、子どもたちはその手紙を恐々見ながらも「豆でやっつける」と決意を固めます。

すずか幼稚園では、1月28日(火)に園庭で朝礼をしているところに「オニネコ宅急便」が手紙を届けてきました。第2すずかきしおか幼稚園でも28日に園舎の踊り場に手紙が落ちていて、子どもたちが先生に届けてきました。両幼稚園とも職員室の近くに手紙を貼り出したところ、子どもたちは手紙を指さして読みながら不安そうな顔をしていました。

そして、週が明けた2月3日(月)、前日は雨でしたので園庭は少し湿ってはいましたが、両幼稚園ともに園庭で豆まきをしました。

まず、各教室で「節分」と「鬼」について話を聞きます。仏教では鬼は「煩惱」を表すそうです。つまり、自分の心の中にある「弱い心」や「欲望」などの煩惱を打ち払う意味で豆をまきながら「鬼は外」「福は内」と言うそうです。

そして、自分たちが作った鬼のお面をつけ、豆を入れる升を持ち、園庭に出ます。先生から升の中に豆を配ってもらいしばらくすると、園庭へ鬼がやってきます。(すずか幼稚園では4匹の鬼、第2すずかきしおか幼稚園では2匹の鬼です。)

鬼の姿を見るとすぐに泣きだす子、怖がりながらも豆をぶつけようと鬼に近づく子、遊具の陰で小さくなって隠れている子、いろいろな姿の子どもたちを見ることが出来ます。しばらく子どもたちと鬼の戦いが続き、鬼が子どもたちの元気さに負け、子どもたちと仲良くしたいと降参します。その後、子どもたちは鬼と握手をして、帰っていく鬼にバイバイをするというストーリーでした。

豆まきをした後に「自分の年齢+1つ」の豆を食べるという風習があります。「年取り豆」と呼ばれるそうですが、「+2つ」「年齢の数」など地域によっていろいろあるそうですが、幼児が豆をのどに詰まらせるという事象があるため、本園では豆を食べることはやめています。しかし、後々に伝えていきたい風習の一つだと思いますので、ご家庭では十分に注意した上で食べてみてください。

